

研究ノート

「博物館体験」を見つめるための試論 ～「The NINJA～忍者ってナンジャ！？～」を題材に～

中村千恵*、太田光俊

〒514-0061 三重県津市一身田上津部田3060 三重県総合博物館

キーワード: 博物館体験, 来館者調査, 体験展示, 評価

Chie Nakamura* and Mitsutoshi Oota. 2016. The essay for staring into "Museum Experience". Mie Prefectural Museum Research Bulletin, 3: 27-37.

*Corresponding author: Mie Prefectural Museum, 3060 Ishinden, Kouzubeta, Tsu, Mie 514-0061, Japan (nakamc02@pref.mie.jp)

1 はじめに

三重県総合博物館（以下、当館）は、開館から3年が経ち、開館当初の活動を振り返り、今後の活動のあり方を考える段階に差し掛かってきた。これまでの3年を振り返ってみると、とりわけ企画展の開催に対して、多分に時間と人的資源が注がれていたと言えるだろう。当館では、所謂“企画展”に相当するものを「企画展示」「トピック展示」「交流展示」という3つに分類しており、それぞれ異なる観点から開催している。（三重県生活・文化部新博物館整備推進室、2008）さらに、館外で行われるものとして移動展示がある。

この分類に基づいて開催された展示を全て数えていくと、以下のような本数になる

○2014年度 ※開館初年度

企画展示 6 本、トピック展示 2 本、交流展示 4 本
計12本

○2015年度

企画展示 5 本（うち 1 本は2014年 3 月からの継続）、
トピック展示 1 本、交流展示 8 本 計14本

○2016年度

企画展示 4 本、トピック展示 1 本、交流展示 4 本、
移動展示 1 本 計10本

（2014年度、2015年度、2016年度三重県総合博物館年間スケジュールより）

開催面積など各展覧会の規模はそれぞれ異なるが、仮に企画展示 1 本が 2 か月の会期だとして、それぞれの狭間にトピック展示や交流展示が開催されているとすると、1 年間ほぼ隙間なく展示を行っていることが見て取れる。

展示は、“博物館の顔”とも言われる通り、利用者にとって最も身近な活動であり、重要であることは言うまでもない。しかし、開館以来、各展覧会を館全体で振り返ることもままならず、次の展覧会に取り組んできた状況があった。私たちは、利用者が展示をどのように捉え、何を感じたり考えたりしているのか、つまり彼らの「博物館体験」¹（Falk & Dierking, 高橋訳, 1996）を改めて見つめ直す必要があった。

そこで、今回第13回企画展「The NINJA～忍者ってナンジャ！？～」(以下、忍者展)を開催するにあたり、観覧者アンケート及び展示室内での観覧行動調査による質的評価を試み、利用者が忍者展によってどのような体験を得たのかを考察した。

なお、忍者展を選択した理由は、忍者展が当館で開催する初めての大規模な体験展示であったからだ。体験展示は、「博物館利用者が主体的に五感を使った学習行為を通じて、特定の情報・知識・経験を得られる展示形態」(全日本博物館学会編, 2011)とされている。月例の館内会議において、アンケート集計の報告

を筆者が行ったところ、こうした展示手法が効果的に作用し、利用者にとって忍者に対する発見や気づきに結びついているのかという点に対して、他の職員から疑問の声があった。そこで、これを機に、体験展示の良さや運営上の課題などを記録し、展示と利用者そして当館のこれからの関わり方を考える一助とすることとした。

2 忍者展の概要

忍者展は、当館の第13回企画展として開催した展覧会である。以下に開催概要を記す。

企画展名：第13回企画展

「The NINJA～忍者ってナンジャ！？～」

開催期間：2016年10月25日(火)から2017年1月9日
(月・祝)まで〔開催日数 62日〕

主 催：三重県総合博物館，朝日新聞社

特別協力：三重大学

協 力：伊賀上野観光協会，尼子事務所，伊賀流
忍者観光推進協議会

公 認：日本忍者協議会

企画協力：日本科学未来館，フジテレビジョン

後 援：外務省，文部科学省，経済産業省，観光
庁，伊賀市，名張市，伊賀市教育委員会，
名張市教育委員会，名張市観光協会，三
重県博物館協会，歴史街道推進協議会

助 成：公益財団法人岡田文化財団

観 覧 料：大人800円，学生480円，高校生以下無料
観覧者数：33,565人（1日平均541人）

今回の展覧会は、三重大学が進めてきた忍者の科学的研究の成果を、忍者修行の体験コーナーを交えて、体感的に伝えることを意図したものである。

なお、2016年7月2日(土)から同年10月10日(月・祝)までは、日本科学未来館（東京都江東区）にて開催し、当館では東海地方における巡回会場として開催した。

忍者は、子どもたちにも人気のコンテンツである。今回の開催期間が、小学校の秋の遠足シーズンや冬休みにも重なったことから、観覧者のうち51.1%を4歳から12歳の子どもたちが占める結果となった。子どもたちの展示観覧の様子を見ていると、忍者修行の体験コーナー（以下、体験コーナー）で繰り返し遊ぶなど、体験展示を楽しんでいる様子が見受けられた。しかし



写真1 忍者修行の体験コーナー

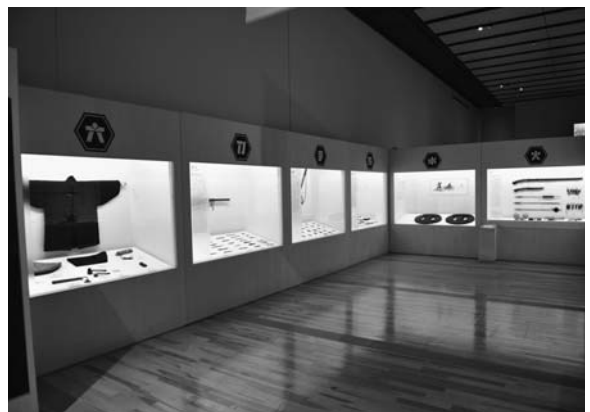


写真2 忍具の展示

一方で、そうした楽しさとともに、彼らなりの忍者との「出会い」³⁾（坂倉，2015）が生まれているのかわからなかった。これについては、子どもたちに限らず、全ての観覧者に対して同じことが言える。そこで、観覧者が展示のメッセージをどのように受け取っているのか、展示物との「出会い」をどのように捉えているのかを検証するために、観覧者アンケートを年齢別で分析した。

アンケートを年齢別に分析を行った理由は、観覧の様子を見ていると、体験コーナーに対する参加度に、大人と子どもで違いが見られたからだ。体験コーナーに参加する／しないという観覧行動の差異が、展示物との「出会い」にどの程度影響するのかを読み取ることがを試行した。坂倉（2015）では、「出会い」の瞬間を読み取ろうとしたが、アンケートの分析は「出会い」の痕跡を探る方法だと言えるだろう。

3 観覧者アンケートの分析

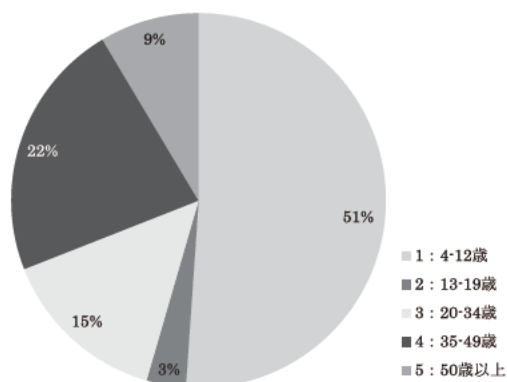
忍者展の観覧者アンケートは、自記式質問用紙を、全開催期間を通じて出口設置式で配布し、回収ボック

スに投函してもらう方法で収集した。用紙については、文末に参考資料として添付する。観覧者数33,565人に対して、回収できたアンケート数は1,569枚であり、観覧者の9.9%であった。そのうち、年齢について有効な回答が記載されていた1,237枚から分析を行った。

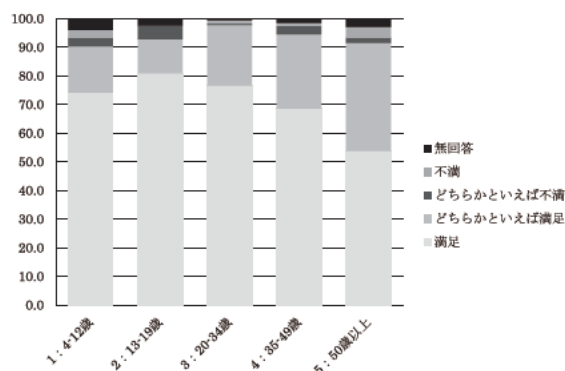
当館でアンケート分析を行う際の年齢区分は、主に広告業界のマーケティングでターゲット層を設定する際の基準に準拠し、「1：4～12歳」「2：13～19歳」「3：20～34歳」「4：35～49歳」「5：50歳以上」の5つに分類している。使用した自記式質問用紙では、上記の5つから回答者が該当するものを選択する。

前章でも述べたように、観覧者の年齢層は「1：4～12歳」が最も多く、次いでその親世代にあたる「4：35～49歳」の年齢層が22.4%と多かった。（グラフ1を参照）

各年齢層の満足度を見てみると、「ご覧になった展示に満足しましたか」という問いに対して、「1：4～12歳」では4段階評価のうち最も高い「満足」で74.2%であるのに対して、「5：50歳以上」では53.8%と、



グラフ 1 観覧者の年齢層 (N=1237)



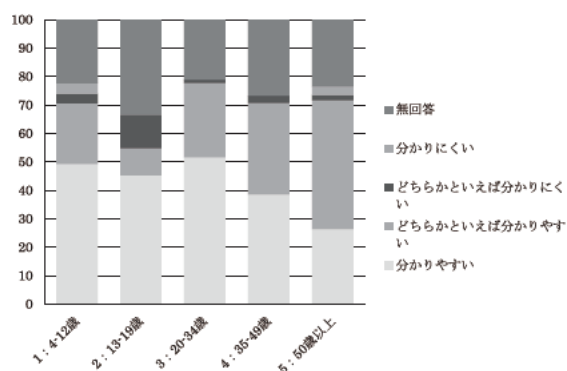
グラフ 2 年齢層別の満足度 (N=1237)

約20%下回ることが分かった。（グラフ2参照）このことから、年齢が若いほど、忍者展の展示内容に満足している傾向が読み取れる。

さらに、「展示や説明・キャプションはわかりやすかったですか」という問いに対して、「1：4～12歳」では4段階評価のうち最も高い「満足」で49.2%であるのに対して、「5：50歳以上」では26.4%と、約23%下回ることが分かった。（グラフ3参照）この数値だけを根拠にすると、先ほどの展示内容に対する満足度と同様に、年齢が若いほど忍者展の展示内容をよく理解したということになる。

しかし、忍者展の解説パネルは、脳科学や気象科学などの視点から忍者の知恵に迫るものであり、全体を通じて専門用語を多用しており、子どもたちに限らず大人にとっても難しい内容ではないかと看取された。次章で行動観察調査の分析について詳述するが、観覧の様子を見てみると、同行者の関わり方が「展示のわかりやすさ」に影響を与えているのではないかと考えられる。実際、多くの子どもたち自身は、体験コーナーに強い関心を示して観覧時間の多くをそれに割いており、解説パネルの果たす役割は少なかったと言わざるを得ない。高い満足度はその状況下のものなのだ。

ここまで、「展示内容」及び「展示のわかりやすさ」の2点について概観してきたが、4段階評価の満足度だけでは、観覧者が展示から何を得たのかを十分把握できなかったとは言えない。また、「展示内容」及び「展示のわかりやすさ」に対する満足度が、他の年齢層よりも著しく低かった「4：35～49歳」「5：50歳以上」の世代が、十分に満足できなかったと感じている理由を何か。そこで、自由記述回答についても、年齢別に分



グラフ 3 年齢別「分かりやすさ」に対する満足度 (N=1237)

析を行った。

まず、上記2世代が必ずしも満足できなかった理由について見てみよう。「改善すべき展示内容や展示方法がありましたか」という問いに対する自由記述回答を見てみると、その要因は大きく3つに分けられる。1つ目は、「子どもに対してもっと分かりやすくしてほしい」という要望だ。解説パネルの難解さに限らず、解説文へのルビが少ないという指摘や、体験コーナーの体験方法が分かりにくいという意見もあった。忍者展は、休日ともなれば孫・親・祖父母といった世代を超えた家族連れでの観覧も多く、子どもたちに付き添ってきた保護者としての立場から感じられた意見と言える。

2つ目は、「もっと実物資料や文献など、学術的な資料が見たい」という要望だ。忍者展でも、冒頭の忍者研究室の展示コーナーで、伊賀流忍者の忍術書「萬川集海（ばんせんしゅうかい）」（伊賀流忍者博物館所蔵）をはじめとした、古文書の展示を行っていた。しかし、展示全体とのバランスを考慮すると、体験コーナーの割合が多く感じられたのだろう。この要望については、子どもの付添という役割に留まらず、自らも観覧者の一人として、展示へ主体的に関わろうとする意志が読み取れる意見である。

3つ目は、「もっと体験コーナーを増やして欲しい」という要望だ。これには2つの側面があった。ひとつは、「(付き添った)子どもが遊び足りない様子だった」など、アトラクション的な楽しさをより期待するものだ。一方では、より難度の高く大人でも挑戦し応えのある体験コーナーを求めるものがあった。

このように、観覧者自身（ここでは「4：35～49歳」「5：50歳以上」の世代）が、どのような立ち位置から展示に関わったのかによって、満足できなかった理由が一定分類できることが分かった。

次に、観覧者が展示物と「出会い」、そして何を得たのかという点について、「展示を観て、何か新たな考えや刺激を得ることができましたか」という問いに対する自由記述の回答を、各年齢別に検証する。

まず、「1：4～12歳」では、多くを占める回答は「面白かった」「楽しかった」「すごかった」「かっこよかった」という感想が多数を占めており、満足度と同様に好意的に展示を受け取ったと推測できる。年齢を考慮すると感覚的な感想でも十分だが、「色々知るこ

とができた」「忍者はマンガみたいな忍者じゃない」「忍者は大変」など、これまで見聞きしたことから抱いていた、自身の忍者へのイメージに対して、新たな発見があったことを伺わせる記述も見受けられた。

「2：13～19歳」では、「心を静めることの大切さ」「生活習慣をしっかりする」など、従来の忍者像である強い戦う姿だけでなく、心技体をバランス良く鍛えていたという点に気づき、自らの生活に引き付けて考えたと思われる記述が見られた。

「3：20～34歳」では、前述の2世代と同様に、忍者に対して新たな発見があったという記述に加えて、「いろいろ忍者小説を読みたいと思いました」「大学で学んだ心理学をもう一回学び直したくなった」など、展示をきっかけとして、自身が何かに挑戦する意欲を得たことが伺われる点が特徴的であった。

「4：35～49歳」では、忍者に対する新たな発見に加えて、「親子で楽しめました」「子どもと一緒に自身が子どもの頃好きだったものを感じられた」など、同行した子どもや家族と一緒に楽しめた時間を評価する記述が特徴的である。

「5：50歳以上」では、薬草などの忍者食に関する展示を新たな発見として挙げている点が特徴的であった。これは、健康への意識が高まる世代であることも要因だと考えられるが、これまでの自身の人生経験と比較して、忍者の知恵が先進的であると感じられたのではないかと推察される。

以上のことから、忍者展から受けた新たな発見や刺激についてまとめると、忍者展では図1のような構造になっていると考えられる。年齢層が高くなるほど、それより若年層の記述傾向を内包しているのではないかと推察される。（図1参照）

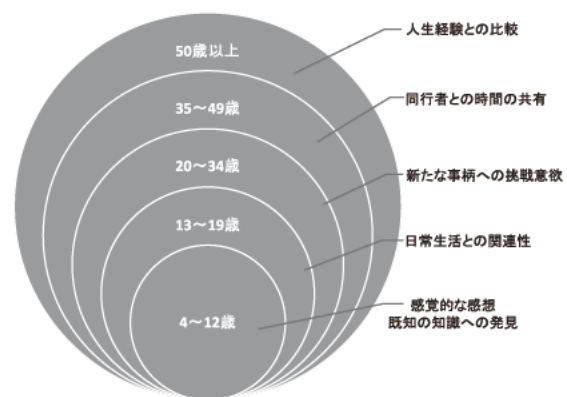


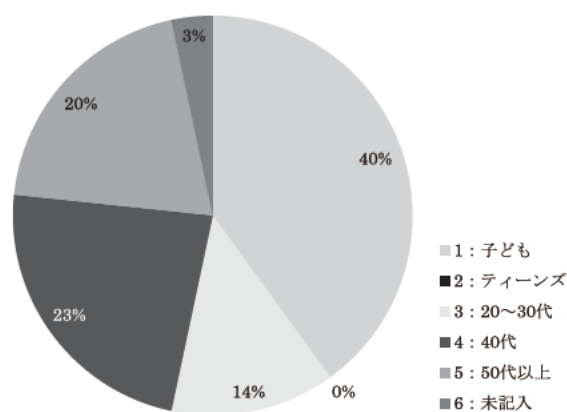
図1 自由記述内容の年齢別構造

4 展示室での行動観察調査による分析

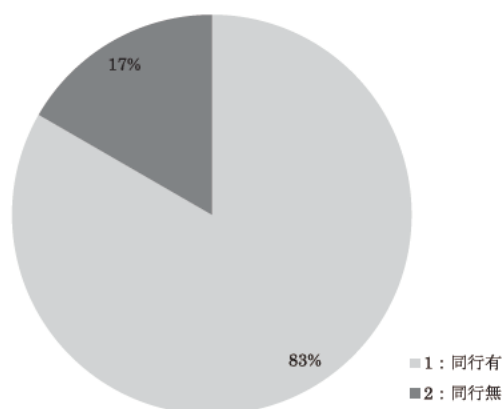
次に、展示室での行動観察調査によって、観覧者が展示室でどのように展示を見ていたのか、アンケートでは分からない、実際に現場を観察した状況について述べる。

調査は、2016年12月11日(日)9時から17時まで、忍者展第1会場である3階企画展示室にて実施した。調査者は、筆者2名に加えて、三重大学及び皇學館大学の学生ボランティア11名である。方法は、観察による観覧時間、動線及び行動の記録である。なお、実施にあたっては調査の目的と方法について展示室入口に掲示を行い、観覧者への周知を図った。対象者の選択については、各調査者に委ねた。また、観覧行動への影響を考慮し、対象者に対する告知は行わず、調査者からの接触も最小限に留めた。(川嶋, 2002) サンプル数は、30件を収集することができた。

30件のうち、対象者となった年齢層はグラフ4を参照されたい。年齢については目測で判断したため、ア



グラフ4 行動観察の対象者割合 (N=30)



グラフ5 同行者の割合 (N=30)

ンケートの基準とは若干異なる点があるが、アンケートから把握した年齢分布と近い傾向となった。また、サンプル数を増やすために、調査日を日曜日に設定したこともあり、家族連れなどの同行者を伴う対象者が80%以上を占めた。(グラフ5参照) 50歳以上の層で単独の観覧者が多い傾向が見られた。また、子ども連れでない同伴者(夫婦など)が見られたのも50歳以上の層だった。

観覧時間については、最短で8分、最長で65分、平均29分だった。各年代別でも平均観覧時間を算出したところ、以下の通り各年代で差は10分以内に収まっていた。対象者の8割以上に同行者がいたことから、同行者の有無だけでは、観覧時間に差が生じることはほとんど無いことが分かった。

子ども	ティーンズ	20~30代	40代	50歳以上
21分	—	28分	37分	28分

表1 各年代の平均観覧時間

20分以下の観覧者は9人おり、その行動は「体験だけ行う」もしくは「体験はせず全体をざっと観る」という2つのパターンに大別できた。

今回の調査で、観覧時間の長さや体験コーナーへの参加度は、年齢よりも対象者自身の関心の高さに拠る部分が大きいのではないかと考えられた。対象者を大別すると、「子ども連れの家族」「大人の男女(夫婦など)」「単独の大人」に分類できる。同行者を伴う場合は、対象者のみならず、同行者の関心の高さも大きく影響していると考えられる。

たとえば、「子ども連れの家族」では、大人・子どもどちらが観覧行動の決定権を有しているかで、観覧行動が変化した。子どもの関心が高く大人が低い場合、大人はあくまで子供の付添であるという認識になり、主体的な観覧行動を起こしにくい傾向が見られた。この場合、子どもが観覧行動の決定権を持つため、関心を示しやすい体験コーナーの割合が大きくなる。また、保護者は体験コーナーに参加する子どもの姿を見守る時間が増え、同行者間での会話生まれにくい。逆に、大人の関心が高く子どもの関心が低い場合、大人が観覧行動の決定権を持つ。体験コーナーにも子どもと一緒に参加することで、同行者間での会話生まれる。

さらに、子どもにとって難解だと思われる部分についても、大人自身が何らかの説明を行おうとする行動が見られた。

忍者展では、アンケート分析からも「子ども連れの家族」が多いことが確認でき、主なターゲット層となっている。観覧体験の質を高めるためには、この層に対しての措置が有効だと考えられた。そして、主体的な関心が低い保護者への働きかけが、観覧者全体の観覧体験の質を向上する可能性を有することが行動観察調査の分析から導き出された。

今回の忍者展では、当館の来館者ボランティアに加えて、三重大学及び皇學館大学の協力を得て、学生ボランティアが体験コーナーでの誘導・補助を主とした展示監視を行った。観覧体験の質を向上するという観点から、展示会場に立つボランティアの役割は重要であると言えるであろう。

ボランティアの観覧者に対する関わり方として、忍者展のような体験展示においては、展示内容に関する更なる知識を提供することよりも、まずは体験してみようという気を起させるような展示に対する関心を抱かせるための誘導の方が効果的ではないかと、今回の調査を通じて考えた。そこで、調査後の改善案として、①体験コーナー以外での子どもたちへの声かけ、②体験コーナーで参加しない大人に対する声かけを提案した。上記の2点は、すでに調査時点でも一定行われていたと推察するが、ボランティア各個人の経験や個性に依る部分が大きい。自らの役割について、ボランティアと展示担当者が改めて共通認識を持つことで、観覧者の展示に対する関わり方を、より主体的に変えられるのではないかと考えた。また、ボランティアにとっても、展示室での自らの役割を考えるということは、観覧者の中で起こっている「出会い」を見極め、より良く関わろうとする試みであり、「来館者理解」を促進すると考えられる。(坂倉, 2015)しかし残念ながら、提案後の調査まで行うことができず、効果については未確認である。

5 おわりに

今回、忍者展のアンケート分析及び展示会場での行動観察調査により、以下の2点が明らかになった。ひとつは、忍者展を通じて、忍者に対して新しい発見を得た観覧者が少なくなかったことだ。当館での初の大

規模な体験展示ということで、遊園地のような一時の興奮に終始してしまうのではとの懸念もあった。観覧者によっては、そのような観覧体験になった可能性はあるが、忍者の生活の知恵や観覧者自身が抱いていた忍者像との差異など、自分なりの発見、つまり「出会い」があったと言えるだろう。ただし、今回の展覧会では、超人的な力を持つ従来の忍者像も含めて展示しているので、既知の忍者像を再確認して理解が深まったのか、それとも観覧者が新たな忍者像を構築し得たのかまでは分析が至っていない。

もうひとつは、主体的な観覧行動を起こす好奇心を喚起することの難しさである。アトラクションとして楽しめる体験コーナーだけに留まらず、展示全体を通じて観覧者が楽しむには、観覧者自身の好奇心が大きな原動力となっていることを改めて認識した。

今回の報告では、アンケートについても行動観察調査についても、回答数や人数、観覧時間以外の部分については数値化することが困難であった。分析も筆者の主観に依るところが大きく、バイアスの除去や学習モデルの適用による分析などが今後の課題である。自由記述部分についても、テキストマイニングなどの手法を使い、更に精度を高めていく必要がある。また、「博物館体験」は本来断片的なものではない。連綿と続く時間の流れの中に位置づけて捉えることも必要であろう。

調査・分析の手法については改善の余地は大きくあるが、このような地道な調査を継続し、来館者理解を深め、今後の展覧会における観覧体験の質を向上することに繋げていくことが重要であろう。

最後に、今回の報告にあたってアンケート入力に携わった業務補助職員の玉置紀子さん、吉川ひとみさん、行動観察調査に協力いただいた学生ボランティアのみなさんに、心より感謝申し上げます。

引用文献

- 川嶋-ベルトラン敦子. 2002. 第2章 来館者調査を計画・実施する—調査の枠組みと実践上の留意点—。入門ミュージアムの評価と改善 (村井良子編著)。ミュゼ, pp.132-148.
- 坂倉真衣. 2015. 来館者の「博物館体験」をどのように理解し、関わるができるか—「学習の文脈モデル (Falk & Dierking, 2000)」の再解釈と展示物

- との「出会い」という捉え方から一．博物館学雑誌．
第41巻第1号，pp.1-19.
- 全日本博物館学会編．2011．博物館学事典．雄山閣．
- 三重県生活・文化部新博物館整備推進室．2008．新
県立博物館基本計画．
- J. H. Falk & L. D. Dierking（高橋順一訳）．1996．
博物館体験—学芸員のための視点—．雄山閣出版．

註

-
- i 「博物館体験（Museum Experience）」とは，FalkとDierking
が博物館等で起こる特有の体験について表現した語である．
彼らは，その体験を理解する枠組みとして，「ふれあい体
験モデル（Interactive Experience Model）」を提唱している．
その枠組みは，「博物館体験」を「個人的コンテキスト
（関心，知識など）」「社会的コンテキスト（同伴者など）」
「物理的コンテキスト（展示，建物など）」の相互関係から
見ていくものである．
- ii 坂倉（2015）では，利用者の中で「博物館体験」がどの
ように起こっているのかを，観覧者に同行し，利用者の体
験を"展示物との「出会い」に特化し，エピソード調査と
言う手法で調査している．坂倉の述べる「出会い」とは，
従来博物館教育で多く用いられてきた「学習」や「見学」
よりも，より広い概念を持つものとして用いられている．
この概念は，利用者の中で起こる体験を，より利用者から
の視点に沿って表現していると考えため，本稿でも引用
することとした．

1) 企画展示「The NINJA～忍者ってナンジャ!?～」アンケート（こども用）

アンケートに答えてくれるとうれしいな。

A 展示について聞きます。

(1) 下の「しつもん」に答えてください。

- ・ おもしろいモノ（資料）やコーナーがありましたか。

①いいえ ②はい（内容： ）

- ・ なおしたほうがよいモノがありましたか。

①いいえ ②はい（内容： ）

- ・ 展示をみて、なにか思いましたか。

①いいえ ②はい（内容： ）

(2) 企画展示「The NINJA」はよかったですか。○を1つおつけください。

①いいえ ②どちらかというと「いいえ」 ③どちらかというと「はい」 ④はい

(3) この展示「The NINJA」をなにで知りましたか。

あてはまるものすべてに○をつけます。

- ①ポスター、②チラシ、③新聞、④テレビ、⑤雑誌、⑥「県政だより」、⑦館の公式ホームページ、
⑧そのほかのホームページ・ブログ、⑨館のTwitterやFacebook、⑩そのほかのTwitterやFacebook、
⑪人からきいて、⑫そのほか（ ）

B 三重県総合博物館 MieMu について聞きます。

(1) 三重県総合博物館 MieMu の展示をみるのは、今回が何回目ですか。○を1つつけください。

① はじめて、 ② 2回、 ③ 3回、 ④ 4回以上

(2) MieMuをひとことで表すと、どんなことばがふさわしいですか。

三重県総合博物館 MieMuは、_____です。

(3) MieMuについて思ったことをかいてね。

C あなた（回答者ご本人）のことを聞きます。もしよければ答えてね

() 内のあてはまる数字に○を1つおつけください。また、_____にはご記入ください。

(1) 性別 () (2) ねんれい _____ さい

(3) すんでいるところ (①津市 _____ 町 ②三重県内 _____ 市町 ③ 三重県外 _____ 都道府県)

(4) 今日を除いて一年で何回、ミュージアムにいきましたか。

(①0回、 ②1回、 ③2回、 ④3回、 ⑤4回以上)

裏も答えてね。

D MieMuの^{ぜんたい いんしやう}全体の印象^きについて聞きます。

(1) 展示^{てんじ}や説明^{せつめい}・キャプションはわかりやすかったですか。 〇を1つおつけください。

①いいえ ②どちらかというと「いいえ」 ③どちらかというと「はい」 ④はい

ご意見・理由 (

)

(2) 職員^{しよくいん}の対応^{たいおう}はよかったですか。 〇を1つおつけください。

①いいえ ②どちらかというと「いいえ」 ③どちらかというと「はい」 ④はい

ご意見・理由 (

)

(3) MieMuに^こ来られる前^{まえ}にどこかに^よ寄られましたか。またこれから寄る予定の場所がありますか。

①総合文化センター^{そうごうぶんか} (② 文化会館^{ぶんかかいかん}、③ 生涯学習センター^{しょうがいがくしゅう}、④ 男女共同参画センター^{だんじょきょうどうさんかく}、⑤ 図書館^{としょかん})

⑥三重県立美術館^{みえけんりつびじゅつかん} ⑦その他^た () ⑧ 寄ってない、または寄る予定なし^{よ よてい}

ありがとうございました。

2) 企画展示「The NINJA～忍者ってナンジャ！？～」アンケート (大人用)

アンケートにご協力ください。アンケートのデータは、博物館運営に関する改善活動や研究以外の目的では使用いたしません。

A ご覧になった展示についてお尋ねします。

(1) ご覧になった展示「The NINJA」に関して、次の質問について具体的なご意見などがありましたら、ご記入ください。

- ・ 興味をひく資料、印象に残った展示コーナーがありましたか。

①いいえ ②はい (内容: _____))

- ・ 改善すべき展示内容や展示方法がありましたか。

①いいえ ②はい (内容: _____))

- ・ 展示を観て、何か新たな考えや刺激を得ることができましたか。

①いいえ ②はい (内容: _____))

(2) ご覧になった展示「The NINJA」に満足しましたか。 **○を1つ**おつけください。

①いいえ ②どちらかという「いいえ」 ③どちらかという「はい」 ④はい

(3) この展示「The NINJA」を何でお知りになりましたか。

該当するものすべてに○をおつけください。

- ①ポスター、②チラシ、③新聞、④テレビ、⑤雑誌、⑥「県政だより」、⑦館の公式ホームページ、
⑧そのほかのホームページ・ブログ、⑨館のTwitter や Facebook、⑩そのほかの Twitter や Facebook、
⑪直接、人から聞いて、⑫その他 (_____)

B 三重県総合博物館 MieMu についてお尋ねします。

(1) 三重県総合博物館 MieMu の展示を観るのは、今回が何回目ですか。 **○を1つ**おつけください。

①はじめて、②2回目、③3回目、④4回目以上

(2) MieMuをひとことで表すと、どんな言葉がふさわしいですか。

三重県総合博物館 MieMuは、 _____ です。

(3) MieMuについてご意見・ご要望などがありましたら、ご自由に記入してください。

C あなたご自身(回答者ご本人)のことをお尋ねします。もしよろしければ、ご回答ください。

() 内の該当する項目に **○を1つ**おつけください。また、 _____ にはご記入ください。

(1) 性別 (_____) (2) 年齢 _____ 歳

(3) 居住地 (①津市内: _____ 町 ②三重県内: _____ 市町 ③三重県外: _____ 都道府県)

(4) 今日を除いて過去1年間で何回、「ミュージアム」を訪れましたか。

(①0回、 ②1回、 ③2回、 ④3回、 ⑤4回以上)

*「ミュージアム」とは、MieMuなどの博物館のほか、美術館、科学館、動植物園、水族館、資料館などを指します。

裏面もご協力ください。

D MieMuの全体的な印象についてお尋ねします。

(1) 展示や説明・キャプションはわかりやすかったですか。 **○を1つ**おつけください。

①いいえ ②どちらかというと「いいえ」 ③どちらかというと「はい」 ④はい

ご意見・理由 ()

(2) 職員の対応はよかったですか。 **○を1つ**おつけください。

①いいえ ②どちらかというと「いいえ」 ③どちらかというと「はい」 ④はい

ご意見・理由 ()

(3) MieMuに来られる前にどこかに寄られましたか。またこれから寄る予定の場所がありますか。

①総合文化センター (② 文化会館、③ 生涯学習センター、④ 男女共同参画センター、⑤ 図書館)

⑥三重県立美術館 ⑦その他 () ⑧ 寄ってない、または寄る予定なし

ご協力ありがとうございました。